

# 仁木町備蓄計画

仁木町







## 1 はじめに

この備蓄計画では、町民による日頃からの自助、共助及び公助の考え方を踏まえ、町民・企業・行政が一体となって対策を推進するものとし、災害時の適切な備えに向けて取り組むこととする。

なお、この備蓄計画は、今後5年ごとに見直しを行い、新たな課題が生じた場合には、その都度検討を加え、修正するものとする。

## 2 基本的考え方

災害時は、被災地域における流通機能の停止や、外部からの救援物資が届きにくい状態が懸念されることから、家庭内備蓄、流通在庫備蓄及び行政備蓄の考え方を踏まえ、備蓄体制の整備を推進することを基本とする。

### (1) 家庭内備蓄

町民が自らの家庭内において「最低3日間、推奨1週間分」の食料、飲料水、携帯トイレ、簡易トイレ、トイレットペーパー、ポータブルストーブ等の備蓄、非常時持出品（救急箱、懐中電灯、ラジオ、乾電池、携帯電話充電器等）の準備を行うなど、日頃から災害時に必要な物資を備えておくことを継続的に広報するとともに、各家庭や地域における備蓄の促進を図る。

### (2) 流通在庫備蓄

災害時に必要な物資（食料及び生活必需品等）を調達できるよう、事業所等と協定書を積極的に締結するとともに、円滑な物資の調達体制を確保する。

### (3) 行政備蓄

役場が行う備蓄は、緊急性があり、家屋が全壊し、消失、流失等により避難した町民にとって、避難所に救援物資等が到着するまでの約3日間に必要不可欠な食料や生活必需品等を選定する。

また、避難所運営、応急対策活動及び救助活動等に必要とする資機材や避難所における医療救護活動に必要とする医薬品等も備蓄する。

## 3 備蓄算定基礎人数

### (1) 備蓄物資支給対象者

備蓄物資支給対象者については、全国の備蓄割合、災害の割合、災害の規模等から、本町においては人口の15%を対象とする。

本町の人口 3,213人×15%=482人とする。

※令和3年1月31日現在（住民基本台帳）

表2 算定基礎となる年代等（人口の15%に対する区別人数）

	区分	構成比	対象人数	備考
1	全年齢	100%	482人	飲料水、簡易トイレ等
2	3歳から69歳	66.7%	322人	アルファ米（雑炊等）
3	1歳、2歳及び70歳以上	32.7%	158人	アルファ米（お粥）
4	0歳	0.7%	4人	乳幼児用ミルク
5	0歳から3歳	2.3%	12人	紙おむつ
6	10歳から55歳の女性	19.5%	94人	生理用品
7	要介護認定者のうち要介護3以上	4.7%	23人	大人用紙おむつ
8	75歳以上	21.2%	103人	簡易ベッド・ダンボールベッド

（令和3年1月31日現在）

(2) 備蓄物資対象日数

備蓄物資対象日数については、避難所生活4日目以降は、救援物資等が到着すると想定し、3日間とする。

4 備蓄品目

(1) 食料

ア アルファ米（雑炊等）

日常生活の主食に近い米飯を中心とし、長期保存が可能で、栄養面でも優れており、副食が不要であることから備蓄する。

イ アルファ米（おかゆ）

高齢者、幼児用及びアレルギー体質等の方用として、5年間保存可能なアルファ米のおかゆ（白粥）を備蓄する。

ウ 乳幼児用ミルク

乳幼児用として、液体ミルク又は粉ミルクを備蓄する。

エ クラッカー

災害時の火や水が無い状況での携帯食として、クラッカーを備蓄する。

オ 飲料水

長期間保存可能な飲料水を備蓄する。

(2) 生活必需品

生活必需品については、避難生活をするにあたって、当初から必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。

ア 毛布

イ 生理用品

ウ 紙おむつ（大人用）

エ 紙おむつ（乳幼児用）

オ 哺乳びん

カ マット（エアーマット等）

キ 簡易トイレ

ク ウォータータンク

ケ 簡易ベッド又はダンボールベッド

(3) 防災資機材

防災資機材については、被災者の救出活動や避難所運営等、地域における応急対策活動に必要な次の資機材を備蓄する。

(例)

救助工具、脚立、ブルーシート、カセットコンロ、携行缶、浄水装置、発電機、投光機、コードリール、バール、暖房機、燃料、AED等

(4) 災害用救急セット

災害時に、けがや病気をした人の応急処置をするために、包帯や絆創膏等が入った多人数用救急箱を備蓄する。

(5) 感染症防止対策用品

避難生活における感染症拡大防止のため、必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。

ア マスク

イ 消毒液（手指消毒用）

ウ 消毒液（清掃用）

エ パーテーション

オ 非接触型体温系

5 備蓄目標

食料及び生活必需品について、備蓄物資算定基礎人数のうち、個別対応が必要となる年代等

を考慮し、備蓄する。

(1) 食料

ア アルファ米（雑炊等）

1人当たり3食×3日分として備蓄する。

a 対象

3歳から69歳

b 備蓄目標（対象人数×3食×3日）

322人×3食×3日=**2,898食**

イ アルファ米（白粥）

1人当たり3食×3日分として備蓄する。

a 対象

1歳、2歳及び70歳以上

b 備蓄目標（対象人数×3食×3日）

158人×3食×3日=**1,422食**

ウ 乳幼児用ミルク

1人1日当たり1,000mlとして3日分を目安として備蓄し、1回あたりの調乳量を200ml（粉換算：27g）として、1日5食（粉換算：135g）を基準とする。液体ミルク及び粉ミルクの合計により目標数備蓄するものとする。

a 対象

0歳

b 備蓄目標（対象人数×5食×3日）

4人×5食×3日=**60食**

※液体ミルクの場合60食=12,000ml、粉ミルクの場合、60食=1,620g

エ クラッカー

1人当たり1食×3日分として備蓄する。

a 対象

3歳～69歳

b 備蓄目標（対象人数×1食×3日）

322人×1食×3日=**966食**

オ 飲料水

1人当たり30×1日分として備蓄する。

※2日目以降については、飲料水の備蓄状況に応じて浄水装置により浄化された水をウォータータンクに詰め支給する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×30×1日）

482人×30×1日=**1,4460**

(2) 生活必需品

生活必需品については、避難生活にあたって、当初から必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。

ア 毛布

1人当たり1枚として備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×1枚）

482人×1枚=**482枚**

イ 生理用品

対象人数比4分の1（4週に1回換算）に対し、1人1日当たり5枚として3日分を備蓄する。

a 対象

10歳～55歳までの女性

b 備蓄目標（対象人数÷4×5枚×3日）

94人÷4×5枚×3日=**353枚**

ウ 紙おむつ（大人用）

1人1日当たり5枚として3日分を備蓄する。

a 対象

要介護度認定基準における要介護3以上の方を目安に算出

b 備蓄目標（対象人数×5枚×3日）

23人×5枚×3日=**345枚**

エ 紙おむつ（乳幼児用）

1人1日当たり5枚として3日分を備蓄する。

a 対象

0歳～3歳

b 備蓄目標（対象人数×5枚×3日）

12人×5枚×3日=**180枚**

オ 哺乳びん（乳幼児用）

使い捨て哺乳瓶を1人当たり5個として3日分を備蓄する。

a 対象

0歳

b 備蓄目標（対象人数×5個×3日）

4人×5個×3日=**60個**

カ マット（エアーマット等）

1人当たり1枚として備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×1枚）

482人×1枚=**482枚**

キ 簡易トイレ

1人当たり5個として3日分を備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×5個×3日）

482人×5個×3日=**7,230個**

ク ウォータータンク（30）

1人当たり1個として備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×1個）

482人×1個=**482個**

ケ 簡易ベッド又はダンボールベッド

1人当たり1個として備蓄する。

a 対象

75歳以上



b 備蓄目標（対象人数×1個）  
 $103人 \times 1個 = \boxed{103個}$

(3) 防災資機材

防災資機材については、避難所の規模、想定される災害等に合わせ、備蓄品目及び数量を決定し計画的に整備を進める。

(4) 感染症防止対策用品

避難生活における感染症拡大防止のため、必要不可欠と考えられる次の物資を備蓄する。

ア マスク

1人当たり3枚として3日分を備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×3枚×3日）

$$482人 \times 3枚 \times 3日 = \boxed{4,338枚}$$

イ 消毒液（手指消毒用）

1人当たり1回3ml、1日あたり12回分使用するとして備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×3ml×12回×3日）

$$482人 \times 3ml \times 12回 \times 3日 = \boxed{52,056ml}$$

ウ 消毒液（清掃用）

避難所1箇所あたり500ml使用するとして備蓄する。また、使用にあたってはペーパータオル等を使用することとし、消毒液（清掃用）とともに各避難所へ備えるものとする。

a 備蓄目標（避難所数×500ml×3日）

$$20箇所 \times 500ml \times 3日 = \boxed{30,000ml}$$

エ パーテーション

1人あたり1区画として整備する。ただし、使用にあたっては1人あたり2㎡を基準とし、親族・同一世帯等考慮のうえ1区画2人以上で使用することを可とする。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（対象人数×1区画）

$$482人 \times 1区画 = \boxed{482区画}$$

オ 非接触型体温系

避難所1箇所あたり2個使用するとして備蓄する。

a 対象

全年齢

b 備蓄目標（避難所数×2個）

$$20箇所 \times 2個 = \boxed{40個}$$

(5) 職員向け備蓄

職員向けの食料、生活必需品及び感染症防止対策用品について、概ね職員数×3日分の備蓄を進める。

ア アルファ米（雑炊等）

備蓄目標  $70人 \times 3食 \times 3日 = \boxed{630食}$

イ 飲料水

備蓄目標  $70人 \times 3l \times 3日 = \boxed{630l}$

ウ 毛布

備蓄目標  $70人 \times 1枚 = 70枚$

エ マット (エアーマット等)

備蓄目標  $70人 \times 1枚 = 70枚$

オ 簡易トイレ

備蓄目標  $70人 \times 5個 \times 3日 = 1,050個$

カ マスク

備蓄目標  $70人 \times 3枚 \times 3日 = 630枚$

キ 消毒液 (手指消毒用)

備蓄目標  $70人 \times 3ml \times 12回 \times 3日 = 7,560ml$